島大病院ニュース 2023年4月

ご報告

ロボット支援直腸切除術のプロクター（手術指導医）に認定されました

消化器外科　講師　山本（やまもと）　徹（てつ）

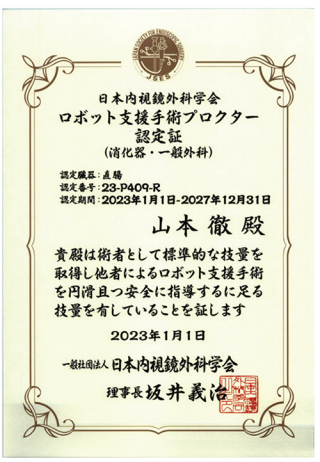
この度、日本内視鏡外科学会ロボット支援直腸切除術のプロクター（手術指導医）に認定されました。

ロボット支援手術認定制度とは、日本内視鏡外科学会が円滑かつ安全なロボット支援手術の導入に寄与するよう制定したもので、術者として標準的な技量を取得し、他者によるロボット支援手術を円滑かつ安全に指導できる（プロクタリング）指導者（プロクター）を認定するものです。この認定を得るには、ロボット支援直腸切除術を40例以上経験することが必要で数年かかってしまうことが一般的です。当院では、2018年に第一例目のロボット支援直腸手術を行いましたが、このたび無事に取得することができました。

この認定を受けることのメリットとしては、ロボット支援手術を導入する医療機関での技術指導などができるようになるため、新たな執刀医の育成が可能となることです。島根県では今までプロクターが不在でしたので、若い外科医がロボット手術を執刀医として行うことができませんでしたが、今回の認定を持って多くの外科医がロボット支援直腸切除術を行うことが可能となりました。

ロボット支援手術では、術者は擬似的な三次元空間で微細解剖を確認しながら手術を行うことができ、さらにロボットがカメラや多関節鉗子（人の手に近い動きのできる操作器具）の手振れを完全に制御するために精緻な手術が可能となります。これにより、従来から高難易度とされていた直腸切除術の手術の難易度を下げることで、癌の根治性を向上させ、更には術後合併症の発生を抑制することが期待できます。

当グループでは、ロボット支援直腸切除術を約50例に行ってきましたが、ロボットに起因する合併症は認めておらず、術後合併症の発生率も従来の鏡視下手術と比べても遜色ない成績で、安全で確実な手術が行えていると実感しています。現在、ロボット支援手術は結腸癌にも適応が拡大されており、当院でも2023年上半期開始を目指して準備を行っている最中です。我々は、大腸癌領域においてもロボット支援手術が正確性・安全性の面で大きなメリットがある手術だと考えています。そのため、多くの患者さんに安全な手術が提供できるよう努力しております。ロボット支援手術のみならず、患者さんにとって最良と考えられる医療の提供を心がけておりますので大腸疾患でお悩みの方は当科まで遠慮なくご相談下さい。



日本内視鏡外科学会
ロボット支援手術プロクター
認定証
（消化器・一般外科）

認定機器：直腸
認定番号：23-P409-R
認定期間：2023年1月1日-2027年12月31日

山本 徹 殿

貴殿は術者として標準的な技量を取得し他者によるロボット支援手術を円滑且つ安全に指導するに足る技量を有していることを証します

2023年1月1日

一般社団法人 日本内視鏡外科学会
理事長 坂井義治

問合せ先　消化器外科　外来　TEL：0853-20-2384

ご報告 島大病院ニュース
2023年4月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/